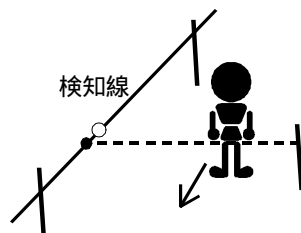
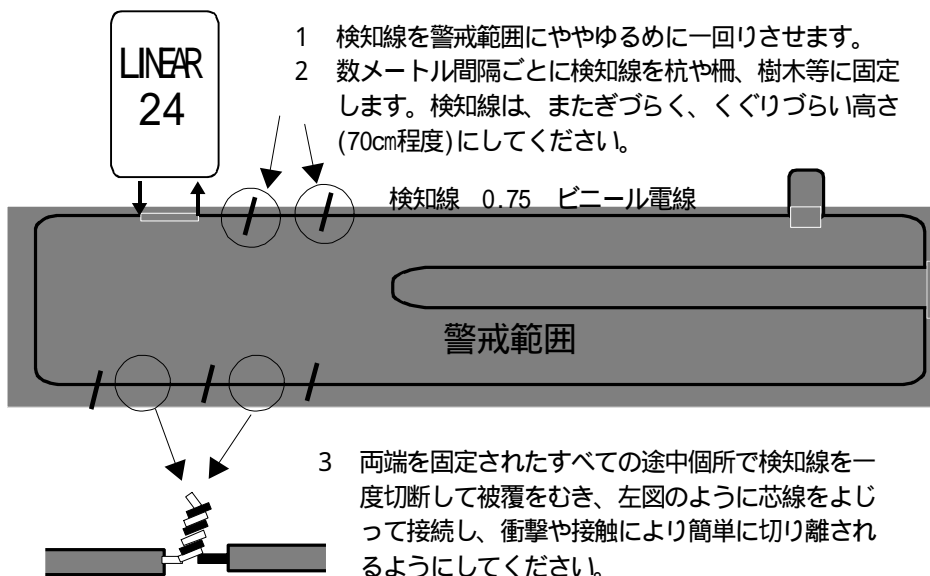


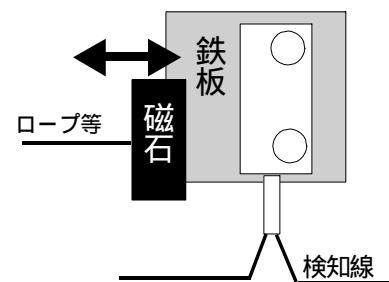
## 検知線の設置方法について

検知線の設置は簡単ですが、大事な部分でもあります。基本は、「リニア24」から出た線が、警戒範囲を一回りして再び「リニア24」に戻るループ状になっていることが必要です。何らかの理由によってこの検知線が断線した状態が12秒以上続いた時に「リニア24」は警報動作を行い、再接続しても設定された時間は停止しません。なお、検知線には目立たない色の0.75mm<sup>2</sup>のビニール電線をご使用ください。当社では、黒、緑、青(各100m 2,100円税込)をご用意しています。



- 4 直接、検知線を切断させるのではなく、左図のように、ロープやひも、釣り糸などで間接的機械的に切断させることも可能です。ロープの先にバリケードやブルーシート等をつないでおき、移動させたときに検知線が切断されるようにするなど、現状に合わせて工夫してください。ただし、引っ張りの角度に注意してください。また、必ず動作試験を実施してください。

## リードスイッチについて・・・



別売の磁石式リードスイッチG100は、近接して磁石がある場合は電気を通し、磁石が遠ざかると絶縁するスイッチです。検知線の閉ループ内にこのリードスイッチを挿入することで機械的な断線を起こすことができます。磁石のみ現地でご用意ください。

## 検知線の長さについて・・・

ランド・ローバー「リニア24」は、検知線接続端子間の閉ループ抵抗が2KΩまで保証しております。0.75mm<sup>2</sup>の600Vビニール電線の抵抗は1Kmあたり25.8Ωですから、理論上では77Kmまで動作することになりますが、全長1000m以内で使用してください。

## 携帯電話の設定について

auの携帯電話で、丸型か角型のスイッチ付イヤホンマイク端子の付いた機種のみ使用可能です。

- ・接続の際には、携帯電話に付属している説明書の「スイッチ付イヤホンマイクの使い方」を参照してください。
- ・携帯電話のアドレス帳のメモリーNo. 499の電話番号1に希望する通報先の電話番号(携帯電話も可)を記憶させてください。万一、この電話が話中の場合は通報できませんのでキャッチホンや割り込み通話の設定していただくとう便利です。
- ・携帯電話のバッテリーの消耗を防ぐため、着信音量をオフに、節電機能をオンにしてください。また、パイプレーターをオフにしたマナーモードやドライブモードに設定しておくことをおすすめします。
- ・自動車用の携帯電話充電器を使用してバッテリーから充電されることも方法です。
- ・携帯電話は、ビニール袋などに入れて、本体内部に収納しておいてください。

## 本装置の設置方法

- ・木板等に取り付ける場合は、本体背面の3箇所の穴を利用して木ビスでしっかりと固定してください。パイプの場合は、両脇のスリットを利用して針金や電柱用バンドなどでしっかりと固定してください。
- ・スピーカーは本体上部に取り付けるか、なるべく高い位置にやや下向きに取り付けてください。
- ・バッテリーに雨水がかからないように注意してください。

## 本装置の点検方法

- ・点検等は特に必要ありませんが、バッテリーの残量、特に携帯電話のバッテリーにご注意ください。3日に1回程度確認されることをおすすめします。